


2024
Season

 明治安田 J1 LEAGUE
 2024明治安田J1リーグ 第26節
 @ 駅前不動産スタジアム

15



MDP

Sagantosu

MATCHDAY PROGRAM

8.11

 (日・祝)


19:00 KICK OFF
 vs 浦和レッズ

©2024 URAWA RED DIAMONDS

 狭間の中でつかんだ光。
 悔しさを乗り越えた

背番号21が

MF 21

 堀米 勇輝
 Yuki HORIGOME

 見せる”楽しむ“
 ことの意味

「若い選手も増えてきたし、チームが変わろうとする中で良い発信をしていきたい」。今季の開幕の前に堀米勇輝には強い責任感が芽生えていた。しかし、思いと裏腹に試練が待っていた。第8節G大坂戦では相手に足を踏まれた際に右足の小指を骨折。プレーは可能だったことから痛みを押して出場を続けたが第11節東京V戦では相手GKとの接触で肋骨が凹み、ヒビも入った。「試合に出られない状況になれば自分のポジションはなくなる」。長きにわたってプロの世界で戦ってきたからこそ、競争の厳しさは理解している。痛みを抱えながらプレーする選手も少なくない世界だが、「100%でプレーできない」以上、休むことを選択するしかなかった。しかし、そのタイミングでチームは今季初の連勝を飾る。「もちろん、連勝はうれしいんですけどイチ選手としては悔しさを感じる瞬間はある。でも、この悔しさをしっかり受け止めないといけない」。ベテランとしてチームを最優先に考える責任感とイチ選手として自らが結果を出したいというプライド。その狭間で堀米は難しい時期を過ごしていた。

それでも、第19節京都戦では負傷からの復帰後初先発で決勝点をアシストし、自らの価値を証明してみせた。そして、7月初旬にチームを迎え中2日間隔でのアウェイ2連戦。「試合に出る、出ないに関わらず絶対にチームの力になる」と強く誓った堀米は第22節新潟戦、後半からピッチに立つと45分の出場で6.7kmの走行距離を出し、スプリント数はチームトップの16回を記録。持てるすべてを45分という時間に凝縮させた。「走る、戦うというのは鳥栖に来て成長できているし、それを確認できることを楽しむという感覚でした」。夏には移籍によって競争相手も増えた。それでも、「競争が増すのは自分にとっては良い環境だし、楽しみ」だと堀米は言い切る。チームと選手、難しいはずの狭間の中に堀米は楽しむことを見出した。悔しさを乗り越えて見えたものを胸に、堀米はこれから巻き返す。

木村情報技術


 鳥栖市
 presents

 市制施行70周年記念
 鳥栖市民DAY
